



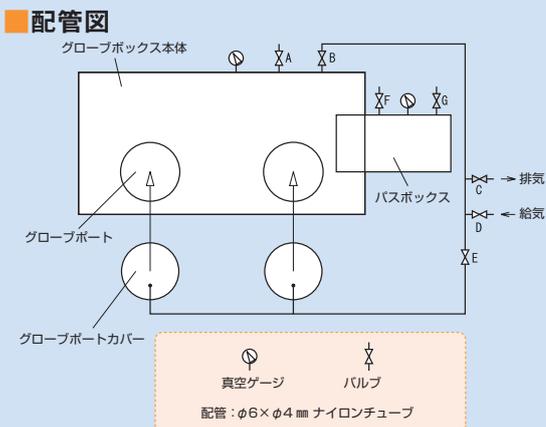
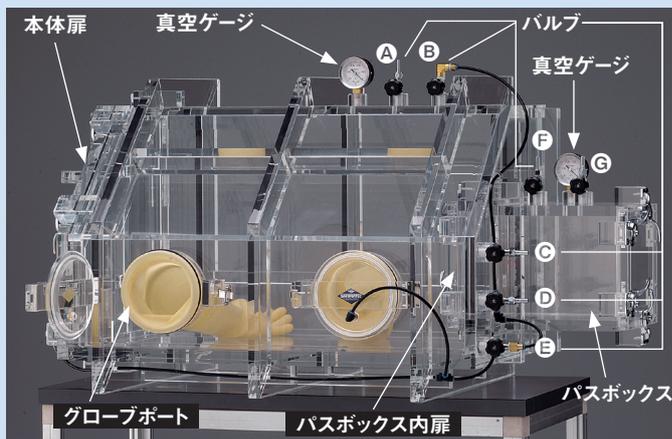
真空グローブボックス

不活性ガス環境を作り出すことができます。

真空ポンプで庫内を排気することにより、効率的にガス置換が行えます。また簡易的に酸化、湿気、粉塵防止が実現できますので、それらを嫌うものの作業に最適です。

大学、企業の研究室で用いられ、顕微鏡、電子天秤などを庫内に入れて、外的影響を受けたくないような作業に使用されています。

使い方マニュアル



【減圧置換方法】

- ① 本体扉を開けて作業物を庫内に入れます。
- ② 本体扉、パスボックス外扉を密閉ハンドルと錠を使って閉めます。パスボックス内扉は開けておいてください。パスボックス内扉を閉めた状態で本体を減圧すると、パスボックス内扉が本体に対して陽圧になり、パスボックス内扉が破損する恐れがあります。
- ③ グローブポートカバーを取付ネジ(又はパッチン錠)を用いて本体に取り付けます。この時、パッキンが均等に当たっているか確認してください。
- ④ バルブを全て閉じて、庫内が密閉状態になるようにします。
- ⑤ バルブCに真空ポンプからの配管を取り付けます。
- ⑥ バルブB、バルブC、バルブEを開き、真空ポンプを作動させて、本体内部とグローブポート内部の気体を排気します。真空ゲージで任意の圧力まで減圧するのを確認したら、バルブCとバルブEを閉じて真空ポンプを停止させます。
- ⑦ 庫内に導入するガスの配管をバルブDに取り付けます。この時過剰に圧力がかからないような対策を行ってください(レギュレーターを使用するなどしてください)。バルブDを少しずつ開き、緩やかにガスを導入していきます。
- ⑧ 真空ゲージで本体内部の圧力が0MPa(大気圧)になるのを確認したら、バルブD、バルブBを閉めてガスの供給を止めます。⑤～⑦の作業を数回繰り返すとより効果的なガス置換が行えます。
- ⑨ 真空ポンプと導入ガスの配管を取り外します。バルブDとバルブEを開き、本体内部の圧力を大気圧に戻します。大気圧に戻るのが確認したら、グローブポートカバーを取り外して作業・実験をおこなってください。



【パスボックス】

一度ガス置換環境を作り出した後、本体の中に物を入れたり、中から物を出すときに、本体扉を開けてしまうと、作り出したガス環境が破壊されてしまいます。出し入れするものが小さい場合、パスボックスを使用すれば本体の環境を壊すことなく物の出し入れが行えます。

- 本体から物を取り出す場合
 - ① 真空ゲージが0MPaになっているか確認します。
 - ② グローブを用いてパスボックスの中に取り出すものを入れ、パスボックスの内扉を閉めます。
 - ③ パスボックス外扉を用いて物を取り出します。この時、排ガス処理を適切に行ってください。
- 本体の中へ物を入れる場合
 - ① 真空ゲージが0MPaになっているか、また、バルブFとバルブGが閉まっているかを確認します。
 - ② パスボックス内扉が密閉ハンドルで閉まっているかを確認して、パスボックス外扉を開きます。
 - ③ パスボックスの中に物を入れ、パスボックス外扉を錠で閉めます。
 - ④ バルブGに真空ポンプからの配管を接続します。
 - ⑤ バルブGを開き、真空ポンプを作動させてパスボックス内部の気体を排気します。パスボックスに付いている真空ゲージで任意の圧力まで減圧するのを確認したら、バルブGを閉じて真空ポンプを停止させます。
 - ⑥ 本体庫内に満たされているガスと同じガス配管をバルブFに取り付けます。この時過剰に圧力がかからないような対策をおこなってください(レギュレーターを使用するなどしてください)。バルブFを少しずつ開き、緩やかにパスボックス内へガスを導入していきます。
 - ⑦ パスボックスに付いている真空ゲージで、パスボックス内部の圧力が0MPa(大気圧)になるのを確認したら、バルブFを閉めてガスの供給を止めます。必要に応じて⑤～⑦の作業を数回繰り返してください。
 - ⑧ 真空ポンプと導入ガスの配管を取り外します。パスボックス内扉を開けて、物を本体の中に入れてください。

